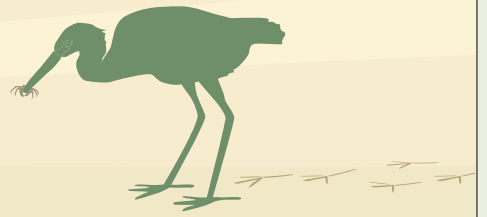


なぎさ NEWS



「西なぎさ」で巨大トゲノコギリガザミを捕獲!

10月3日、「西なぎさ」で高校生を対象とした生物観察プログラム^{じっし}を実施中に、巨大なトゲノコギリガザミ^{きょだい}を捕獲^{ほかく}しました。発見したのはプログラムに参加した高校生で、あまりの大きさにカニだとは思わなかった、とのこと。今回捕獲した個体は、甲幅^{こうぷく}約14cm、甲長^{こうちやう}約9cmでした。また、なぜか左のはさみ脚がありません。ノコギリガザミのなかまは、大きくなる種では甲幅20cmに達するようなので、これでも若い個体なのかもしれません。熱帯から亜熱帯^{あねつたい}の mangrove 帯で多く見られ、大変おいしいので高級な食材として知られています。日本では、トゲノコギリガザミのほか、アミノコギリガザミ、アカテノコギリガザミの3種が知られていて、色やトゲの形状などからトゲノコギリガザミと同定しました。少し古い^す図鑑には相模湾以南に生息するとの記述があります。10年ほど前に東京湾でも木更津方面で、もう少し小型の個体が見られましたが、このような大きな個体を見たのは初めてです。前号でガザミの脱皮殻^{だつぴがら}の紹介をしましたが、まさか「西なぎさ」にノコギリガザミのなかまがいるとは思いませんでした。ここには mangrove のような隠れるところがありませんが、これだけ大きいと天敵も見当たらず、エサさえ確保できれば、快適な生息地なのかもしれません。

(教育普及係 池田 正人)



捕獲直後のトゲノコギリガザミ

「西なぎさ」になかま入りした小さなカニ



泥の中からすくった小さな小さなヤマトオサガニ

11月5日に「西なぎさ」で生き物調査を行いました。夏よりは少なくなりましたが、「西なぎさ」を代表するカニが数多く見られました。とくにヤマトオサガニ^{ていぼうぞ}は、堤防沿いの泥地^{どろち}で活動している姿が多く観察できました。横長の特徴的な甲らを持つ甲幅4cmほどのカニです。今回も活動している姿を数m先まで観察できましたが、ふと足元の泥地を見ると、うごめくものが! 近づくとすぐに泥に潜っていきました。採集してよく見てみると小さな小さなカニでした。横長の甲らに長い眼、ヤマトオサガニの稚ガニ^このようです。調査を進めていくと、甲幅が6~8mm前後のヤマトオサガニの稚ガニが数多く確認^{かくにん}できました。カニのなかまの多くは、卵^{たまご}からふ化してしばらくは、海中を漂うプランクトンとして生活します。その後、脱皮^{だつ}を繰り返して稚ガニへ姿を変えると、海底での生活へとくらしも変わります。ヤマトオサガニは10月頃まで産卵^{さんらん}し、稚ガニになるまでには27日前後かかります。今回観察されたのは、9、10月頃にふ化した個体が西なぎさで着底したもののなのでしょう。

今の時期に「西なぎさ」に行った際には、大きいカニではなく、いかに小さいカニを見つけられるか、やってみてはいかがでしょうか?
(教育普及係 西村 大樹)

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、10月に行った地曳き網調査^{しびあみ}と11月に行った生き物調査の結果をお伝えします。

10月地曳き網調査: 水温 22.0℃、気温 18.0℃。少し肌寒く、秋を感じる「西なぎさ」。毎年秋に出現するサツパやヒイラギが多く見られました。また、夏期にだけ見られるギマが採集され、8月は大きいもので全長2cmほどでしたが10月には4cmほどに成長していました。

11月生き物調査: 気温 17.7℃。秋も深まり、涼しくなってきましたが、オサガニやヤマトオサガニ、コメツキガニなど「西なぎさ」を代表するカニが数多く見られました。また、普段砂の中に潜っているアラムシロガイが砂の上を歩いている姿^{すがた}が数多く観察できました。